

第16回 日本・スペイン・シンポジウム 外務省主催昼食会
平成25年10月3日 12:40～, 経団連会館

岸信夫外務副大臣 冒頭挨拶

皆様こんにちは。外務副大臣の岸信夫でございます。3日前に外務副大臣を拝命いたしました。

私は、政治の道を志すまで、21年間にわたり商社に勤め、世界中を駆けめぐっておりました。中でも、ベトナムに在勤し、新たな国づくりのために、現地の若者と共に汗を流した日々は、大変良い思い出です。

本日の会議のテーマの一つが「新興国市場」であると同い、まず私の頭に浮かんだのは、やはりベトナムが、アジアの新興大国として雄飛しようとしている姿を目の当たりにした経験でした。

日本やヨーロッパが、長引く経済の低迷からの再生を遂げるためには、新興市場の活力を取り組んでいくことが不可欠です。そして、東南アジアという得意分野を持つ日本と、中南米という得意分野を持つスペインが、この観点から協力しあうのは、極めて自然なことであります。

さて、私の選挙区は山口県にあります。山口と言えば、フランシスコ・ザビエルの布教の地、日本とスペインの「出会いの地」であります。

そして、日本とスペインの記念すべき年である今年、ザビエルが所属していたイエズス会から史上初めて、しかもスペイン語を母国語とされる、フランシスコ・ローマ法王が選出されました。こんなところにも、不思議な縁を感じます。

このように、日本にとって、最も古いヨーロッパの友人であるスペインとは、時間と空間を越えて、いくつものつながりがあります。

いま、日本とスペインは、自らの経済再生という一点において、国家目標を共有しています。これもまた、両国の長く多面的なつながりにかんがみれば、必然的なことかもしれません。

本日のシンポジウムにおいて、目標を共有する日本とスペインの間に、また多くの新たな出会いが生まれるような二国間協力の御提案を頂けることを祈念してやみません。

御清聴ありがとうございました。